

	とべちょう 砥部町	〒791-2195 伊予郡砥部町宮内1392		電話 番号	(089) 962-2323
		地域 指定	過疎 山振 農工 辺地(2) 特農 農振 瀬国観テ 県立公園	FAX	(089) 962-4277 (代表)

<https://www.town.tobe.ehime.jp/>

〈沿革〉

平17. 1. 1 町制施行 (砥部町・広田村 合併)
--------------------------------

〈市町のあらまし〉

愛媛県の中央部に位置し、松山市の南に隣接している。南は山が多く、北は道後平野の一角を占め、南北に流れる砥部川沿いに国道が走り集落が開けている。松山市と高知県とを結ぶ国道33号線が縦貫する交通の便と、変化に富んだ緑の自然により、松山市のベッドタウンとして昭和41年以後住宅化が進み人口が急増した。柑橘類を主体とした果樹栽培が盛んであるほか、経済産業省より伝統的工芸品の指定をうけている砥部焼は手作りのよさと独特な材質が好評を博し松山圏の重要な観光資源である。
--

〈由来〉

古来、文献にも見られるような、良質の砥石「伊予砥」を産する町内の一地区を「砥山」と称したが、いつの頃からか、周辺の地域一帯を含めて「砥部」と呼ぶようになった。
---

〈庁舎の建設年度〉

建築年度	増 改 築	主な増改築箇所
昭62年度		

〈行政組織〉

(平成31.4.1現在)

区 分	名 前	任 期
町 長	佐川 秀紀 <small>さかがわ ひでおき</small>	令和3. 2. 5
副町長	上田 文雄	令和3. 2. 14

議 会 (平成31.4.1現在)

議長	中島 博志	副議長	面岡 利昌
議員	(条例定数) 16人		
	(現 員) 16人		
任期	令和3. 2. 5		

職員数 (平成31.4.1現在)

普通会計	168人
企業会計	14人
その他会計	12人
計	194人

〈人口・世帯数〉

( )は増減率

区 分	平2国調	平7国調	平12国調	平17国調	平22国調	平27国調	31.1.1住基
人 口	(7.6%) 20,802	(4.3%) 21,705	(1.7%) 22,075	(1.6%) 22,424	(△2.0%) 21,981	(△3.4%) 21,239	21,230
男	9,806	10,168	10,338	10,609	10,347	9,995	10,134
女	10,996	11,537	11,737	11,815	11,634	11,244	11,096
世帯数	6,462	7,127	7,731	8,201	8,272	8,356	9,338

年齢構成 (平27国調)

区 分	14歳以下	15歳以上64歳以下	65歳以上
人 口	2,671 人	12,161 人	6,323 人
構成比	12.6 %	57.3 %	29.8 %

選挙人名簿  
登録者数 (令和元.9.1現在)

男	8,433 人
女	9,442 人
計	17,875 人

(土地利用)

(平27.2.1現在) (ha. %)

総面積 令和元.7.1 (km <sup>2</sup> )	林野面積	林野率	経営耕地面積			宅地化率 平30.1.1	
			田	畑	樹園地		
101.59	7,161	70.5	399	54	31	314	3.6

(産 業) 産業構造

(百万円・人)

区 分	総生産額(平28年度)		就業人口(平27国調)	
第1次	1,972	3.4 %	953	9.3 %
第2次	8,903	15.5 %	2,317	22.7 %
第3次	46,648	81.1 %	6,930	67.9 %
計	57,523	100.0 %	10,200	100.0 %

(注)「総生産額」の計欄は帰属利子の控除等を行っており、「就業人口」の計欄は分類不能の人数を含む。

主要製造業 (平29年)

(百万円)

所得 (平28年度)

品 名	製造品出荷額等
食料	9,462
窯業・土石	1,385

1人当たり 市町民所得	2,469 千円
----------------	----------

平成30年度の主な建設事業

(百万円)

今後の主な建設事業

(百万円)

事 業 名	事 業 費
水道事業(配水管布設替等工事)	111
公共下水道事業(管渠工事等)(繰越含む)	446
町道等道路改良・維持補修事業(繰越含む)	314
砥部小学校校舎棟大規模改修工事	56
麻生保育所改築事業(繰越含む)	126
中央公民館耐震・大規模改修事業	0
総合福祉センター(はらまち)建設事業(繰越含む)	537
簡易給水施設等改良工事	42
災害復旧事業(繰越事業)	61
消防団第6分団ポンプ車更新事業	23
麻生小学校用地東側舗装等工事	16

事 業 名	事 業 費
水道事業(配水管布設替等工事)	240
公共下水道事業(管渠工事等)(繰越含む)	484
町道等道路改良・維持補修事業(繰越含む)	148
砥部小学校校舎内運動場石綿除去工事	38
麻生保育所改築事業(繰越含む)	609
中央公民館耐震・大規模改修事業(繰越含む)	978
県被生活者生活支援システム整備事業	1
簡易給水施設等改良工事	43
災害復旧事業(過年度分)(繰越含む)	471
町防災行政無線更新事業	233
排水ポンプ車整備事業	54
小学校ブロック塀改修工事(繰越事業)	19
小学校校舎空調設備整備工事(繰越事業)	230

〈観光・レクリエーション〉

名勝旧跡 観光施設	<p>名勝旧跡…砥部衝上断層 大下田古墳群 水満田古墳群 千里城址                  銚子滝 仙波溪谷 権現山 白糸の滝 長曾池 立花城跡 玉谷三所権現 千人塚                  観光施設…とべ動物園 えひめこどもの城 陶街道ゆとり公園 とべ温泉「湯砥里館」                  陶芸創作館 砥部焼伝統産業会館 陶板の道 陶祖ヶ丘 神の森公園                  道の駅ひるた「峡の館」 農村工芸体験館 権現山休憩所 長曾池キャンプ場                  銚子ダム公園                  伝統芸能…獅子舞 舎儀利 立花太鼓 満穂万歳                  観光ルート…陶街道五十三次</p>
祭り 催し物	<p>祭り…地方祭(10月6～7日・23日)                  催し物…砥部焼まつり(4月第3土曜・日曜日) ほたるまつり(5月下旬～6月中旬)                  権現山流しそうめん(7月～9月上旬)                  秋の砥部焼まつり(11月第1土曜・日曜日) 砥部陶街道文化まつり(11月第1土曜・日曜日)                  じねんじょまつり(12月上旬) 七折梅まつり(2月20日～3月10日)                  とべ日曜日(毎週日曜日) 川登市場(毎月第2日曜日) とべ楽市(奇数月の第2日曜日)</p>
公営 宿泊施設	

〈名物・特産品〉

砥部焼 みかん 七折小梅 自然薯 日本酒 酒飴 たらいうどん 乾しいたけ こんにやく しょうゆ

〈主な公共施設〉

砥部焼伝統産業会館 陶芸創作館 とべ温泉「湯砥里館」 勤労青少年ホーム 総合福祉センターはらまち  
 保健センター 美化センター 老人福祉センター 老人憩いの家 老人生きがいの家 坂村真民記念館  
 中央公民館 千里地区公民館 文化会館 図書館 陶街道ゆとり公園 ひろた交流センター 農業研修センター  
 陶芸作業場 ふるさと生活館 山村留学センター 神の森公園 高齢者生活福祉センター 峡の館 農村工芸体験館

〈主要課題〉

1. 人と地域のつながりを活かした協働によるまちづくり(協働)  
 社会情勢の変化により住民のニーズが多様化する中で、まちづくりにおける「協働」というキーワードは、なくてはならないものとなっている。地域のつながりがある本町の強みを活かし、協働によるまちづくりを目指す。
2. 誰もが住みやすく、住みたいと思えるまちづくり(移住・定住)  
 人口減少対策として地方創生が本格化する中で、本町においても、「選ばれるまち」となるためには、誰もが住みやすく、住みたいと思えるまちになることが重要である。そこで、町外からは「住みたい」と思えるまち、町内では「住み続けたい」と思えるまちを目指す。
3. 将来にわたって持続可能なまちづくり(行財政運営)  
 本町は、実質公債費比率や経常収支比率などの基準から判断すると、県内でも比較的良好な財政運営状況となっている。しかし、人口減少に伴う歳入減や公共施設などの維持管理費増を考慮すれば、決して楽観視はできない状況である。そのような中、本町が有する資源を活かしたふるさと納税の推進や補助金などを活用した歳入確保はもちろんのこと、事業の選択と集中、業務の効率化などによる歳出の抑制を図ることで、将来にわたって持続可能なまちづくりを目指す。

〈地域づくりの事業等〉

平成17年の町村合併を契機に、旧町村を結ぶ国道33号・国道379号を「砥部陶街道」と命名し、まちづくりの象徴として各種事業に取り組んでおり、平成20年11月には、日本風景街道に認定されている。  
 平成26年8月には、砥部町を走る国道33号線の中央分離帯に砥部焼モニュメント10基を設置し、国の伝統的工芸品である「砥部焼」のPRを行い、砥部焼の振興を図っている。(現在33基設置)  
 また、平成28年8月には東京アンテナショップを開催し、首都圏における「砥部焼」をはじめとした町産品の認知度向上及び販路拡大を図るほか、平成28年12月には砥部を全国にPRするためのブランドマークを制作し、他の自治体との差別化を図るデザインツールとして、様々なものに活用を広げている。

